



書
評

ウォーモルド 内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術

原著：Peter-John Wormald

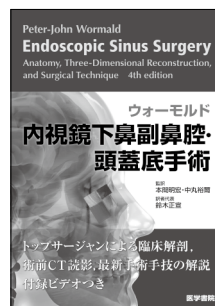
監訳：本間明宏，中丸裕爾

訳者代表：鈴木正宣

A4・頁 328 2020 年 09 月 定価：22,000 円（本体 20,000 円＋税 10%）

[ISBN978-4-260-04200-0] 医学書院 刊

<評者> 丹生健一（神戸大教授・耳鼻咽喉科）



ついに、日本の多くの耳鼻咽喉科医が望んでいた本が出版された。

言わずと知れた内視鏡下副鼻腔手術の世界的権威であり、現在のわが国の手術方法の原点と言っても過言ではない、P. J. Wormald の著書「Endoscopic Sinus Surgery」の日本語訳版である。原著が素晴らしい本であることはわかっていたが、やはり英語なので完全には理解しにくかったという先生方にとって垂涎ものである。

図や写真も含め原著第4版がそのまま翻訳された形となっているため、Wormald の理論がじかに吸収でき、各セルの位置関係をCGで3次元的に再構成する、かの有名な Building Block Concept のほか、Axillary flap アプローチや前頭洞の解剖や手術における国際分類についての理解が深まる。そして鼻腔手術や各副鼻腔の基本的な開放方法だけでなく、副鼻腔拡大手術や

頭蓋底手術、副損傷の対処方法まで網羅されているため、これから鼻科手術を始める若い先生方のバイブルとしてはもちろん、すでに多くの手術を経験されている先生方の理論の確認やさらなる技術向上につながるだろう。また手術手技だけでなく、臨床解剖に基づく術前CTの読影方法や術後管理の方法まで、そこも教えてほしかったという内容が盛り沢山である。

手術動画に関しては近年の流行が取り入れられ、QRコードを読み取るタイプなので、スマートフォンで簡単に閲覧することができるのも嬉しい。

これだけ膨大な量の英文をここまで自然な日本語に翻訳してくださった、本間明宏先生をはじめとする北大耳鼻咽喉科・頭頸部外科の先生方に感謝と敬意を表するとともに、この本がより多くの耳鼻咽喉科医の先生方の本棚に並び、わが国全体の内視鏡下副鼻腔手術のレベルアップにつながることを切に願っている。